# risei + trip

vol. 26

特集

先生は、卒業生！
（理学療法学科篇）

特集

# 先生は、卒業生！
## （理学療法学科篇）

**井口奈保美先生と松村明保先生は、本校の卒業生。理学療法士とアスレティックトレーナー、ダブルの取得を目指し、共に学んだ間柄です。理学療法士、トレーナー、卒業生、教員として。履正社理学を知り尽くす二人が語ります。**

※本対談では、理学療法士(PT)と
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(AT)、
両資格を所持するトレーナーを「PTAT」と呼称しています

1写真左から井口先生、松村先生。井口先生は夜間部、松村先生は昼間部出身 2さまざまな授業でグループワークを導入。与えられた課題を各自で調べ、グループで意見を発表する 3本校はPT、ATの両資格をいかし、プロチームはじめ多くのスポーツ現場でトレーナーを務める卒業生を輩出

photographs by Noriko Yoshimura Naohiro Kurashina

**松村**　私も井口先生も、PTATを目指したくて履正社を選んだけれど、それ以外に決め手はあった？

**井口**　オープンキャンパスかな。他校もいくつか見たけど、私の想いを真摯に受け止めてくれた先生に出会えたのが大きかった。

**松村**　それって、どんな感じだったの？

**井口**　私、もともとは営業の仕事をしていたから、セールストークだけの人には敏感で（笑）。でも履正社の先生は「こういう選択ならやめたほうがいい」「それならこっちの方がいい」と、率直に話してくれたの。ずっと私の話にフォーカスして、進路の可能性や取捨選択の方法を示してくれた。そこに魅力を感じて、最終的に人で選んだ。

**松村**　社会人経験のある井口先生が言うと説得力がある……！　教員の立場としても、在校生が「オープンキャンパスで対応してくれた先生や先輩の印象で決めました」って言ってくれたときは、すごく嬉しい。

**井口**　松村先生の決め手は？

**松村**　私も、母親と参加したオープンキャンパス。地方からの進学だったから、学費や生活面などを、私より母のほうが心配していて。でも、先生が丁寧に説明してくれて、親子で安心したのを覚えてる。

### 答えがひとつじゃない仕事。

**井口**　今の理学療法学科の学びは、教員の話を一方的に聞くだけの講義スタイルから、グループワークを活用して一緒に学ぶ「協働学習」が増えつつあるね。

**松村**　グループで学ぶと、他の人の意見を聞いて「そういう視点もあるんだ」って、思考の幅を広げることができる。PTの仕事って、答えがひとつじゃない。だからこそ、学生のうちからいろんな人の考え方に触れられるのは、メリットが大きいと思う。こういう学びのスタイル、私が学生の頃から欲しかったな。

**井口**　PTは医師や看護師、作業療法士など、さまざまな職種の人と連携する仕事だから、いろんな意見を持つ人と話せるようになることはとても大切。特に「どういう風に話せば相手に伝わるのか」を、学生時代から磨いておくと、社会に出たらきっと役立つ。

**松村**　共に学ぶ、という点ではAT実習もそう。

**井口**　ATになるために必要な現場実習ね。

**松村**　普段、理学療法学科で学んでいても、AT実習では鍼灸師や柔道整復師の資格を持つ先生が担当だったりするし、他学科の学生も一緒だからいろんな意見、アプローチを吸収できる。

**井口**　トレーナーも監督やコーチ、選手など、いろんな人と関わる仕事。多角的な視点で、コミュニケーションをしっかりとれることがカギになるよね。

### PTATの価値は、ますます高まる。

**松村**　私たちPTATは、選手がケガや障がいのある状態から競技復帰できるまでの、いわゆるリコンディショニングが得意。そこからさらに、PTの強みを発揮できる現場があるとすれば……。

**井口**　パラスポーツは特に価値が高いと思う。ATのスポーツ全般に関わる知識・技術と、PTの専門領域を融合することで、より選手の力になれる。

**松村**　車いすやトイレの利用時、どんなサポートが必要か準備できるし。脊髄損傷を負った方はここに注意するとか、疾患、病態への知識も備わっているからね。

**井口**　スポーツ現場に限らず、PTの活躍の場は広がっているから、私たちも学生一人ひとりがイメージする将来像を叶えるお手伝いができれば。

**松村**　もし在学中、つまずいてしまうようなことがあったとしても、卒業生だからこそ共感して、アドバイスできることもあるし。

**井口**　PT、AT、教員、卒業生、社会人……いろんな立場から学生をサポートしていきたいね！